地域社会と密接な連携を築こう

～気軽に参加できる活動を通して、子どもたちの学習環境を整える～

豊田市立西保見小学校ＰＴＡ

１　学区及び学校の概要

本校は豊田市の北部に位置し、児童数２４２名、学級数１３（内特別支援学級３）の小学校である。校区には公団・県営が立ち並ぶ保見団地と緑苑と呼ばれる分譲住宅地があり、保見団地にはブラジル人を中心とした外国人が多く居住している。そのため、本校児童の約７割（１６７名）が外国人児童である。日本生まれの児童もいるが、１６７名全員が日本語指導を必要としており、その適応を効果的に進めるために「日本語教室」を中心に、教育支援の実践を進めている。

ＰＴＡ役員は長年日本人保護者が務めてきた。しかし、多文化共生の視点から、外国人保護者に対しても積極的に役員募集を呼びかけている。規約にも外国人の役員を置くことを明記し、令和３年度は会長を外国人保護者が務めるなど、多文化共生での協力体制が徐々にできつつある。

２　研究のねらい

外国人児童の保護者の中には、日本語の理解度が十分でない方もいる。総じて朗らかで人柄のよい方が多いが、学校に対する考えや行事に対する協力度も日本人とは異なる場合が多い。このような状況の中で、何とかＰＴＡ活動への参加を促し、学校・保護者・地域が連携を図って心豊かな子どもを育てていきたいと考えた。

３　研究の仮設

ＰＴＡ・学校・地域コーディネーター等が連携・協力して、保護者が参加しやすい活動を企画し、広く地域や保護者に呼びかけるようにすれば、活動の認識度や保護者の参加率が上がり、地域全体で子どもたちの成長を見守ることにつながるのではないか。

４　研究の方法

大きなイベントのようなものを企画するのではなく、保護者が学校に立ち寄った際に気軽に行うことができたり、参加するのが楽しみになったりするような内容を考える。文書や学校ホームページ等で保護者や地域に広く周知することで、子どもの学びを助けたり学習環境を整えたりするためのボランティア活動への参加率を上げていく。

５　研究の実践

（１）資源回収

学校公開週間等に合わせ、年に３回、資源回収を計画して呼びかけている。本校外国人児童の９０％近くがブラジルにルーツがあるため、学校からの連絡文書はすべて日本語とポルトガル語で作成し、両面印刷して配付している。ＰＴＡに関する文書の翻訳は外国人役員が担当している。保護者が持ってきたものをすぐに置けるように、集積場は公開週間時に受付がある昇降口にした。段ボールや牛乳パック等が数多く集まった。また、下校後に子どもと一緒に持参する姿も見られた。そこで得た収益もＰＴＡの活動費に加え、水泳指導時の暑さ対策のためにプールに設置するテント等を購入した。

（２）窓ふきボランティア

【窓ふきボランティア活動中】

言葉が分からなくても、誰もが気軽に取り組める活動として計画したのが「窓ふきボランティア」である。学校公開日の授業が始まるまでの、ちょっとした時間を利用して行っている。受付には雑巾や洗剤、ビニール手袋を準備して、誰でもすぐに取り組めるようにした。受付にいるのが外国語が話せないＰＴＡ役員でも、窓ふきの道具を渡し、身振り手振りで依頼をすると、多くの保護者が活動内容を理解して笑顔で快く道具を受け取り、真剣に取り組んでくれた。子どもでは手が届かない部分もきれいに磨き上げられ、ぴかぴかになった窓を見て、保護者も子どもたちもうれしそそうであり、笑顔あふれる活動となった。

（３）ハローウッズ整備

【階段の整備に取り組む地域の方々】

学校に隣接した森林を「ハローウッズ」と呼んでいる。ブナやナラなどの木が自然な状態で生い茂る雑木林である。敷地外なのだが、地権者の好意により、学校に無償で貸し出されている。校内ではないため、休み時間等に子どもだけで行くことはできないが、生活科や総合的な学習の時間、理科等でハローウッズを訪れ、季節の植物を観察したり昆虫を探したりしており、子どもたちの楽しみになっている。

ハローウッズ内は、人が歩きやすいように道や階段はあるが、私道のため、自分たちで定期的に整備する必要がある。西保見小学校では、毎年１１月末に、学校・ＰＴＡ・地域コーディネーターの連名でボランティアを広く募集して、ハローウッズ内の整備を行っている。土曜日に設定しているので教員や保護者だけではなく、地域のシニアクラブの方々も参加してくださり、午前中の約２時間、協力しながら気持ちの良い汗を流している。１１月は大人のみの作業であるが、それを引き継ぐ形で６年生が卒業奉仕活動として整備活動に取り組んでいる。

６　研究の考察・成果と今後の課題

誰にとっても分かりやすい活動、身体を動かす活動を計画したことで、保護者や地域とつながりながら子どもの学習環境を整えることができた。時間がかからない取組だったこともよかったと考える。

両親ともフルタイムで働いている家庭の増加、さらに近年のコロナ禍を受けて、ＰＴＡの活動は大きく縮小された。本校も数年前までは、ＰＴＡ主催のバザーや西保見祭り等の大きなイベントが行われていたが、今はない。ＰＴＡ役員にとって負担は減ったが、その分ＰＴＡの活動が保護者に伝わりにくくなってしまっている。保護者アンケートの「学校でのボランティア活動に参加していますか」という問いに対し、「あまりしていない・していない」と答えたのは、日本人保護者約６０％、外国人保護者では約８０％に上る。だた、どちらの保護者も子どものために活動したいという思いはもっている。今後は、ボランティア活動をより広く周知することで、どの保護者も１年に１回は参加するように促し、子どもの学びをみんなで見守っていけるようにしていきたい。